

【表紙】

【提出書類】	内部統制報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の4第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2025年6月23日
【会社名】	SBIレオスひふみ株式会社
【英訳名】	SBI RHEOS HIFUMI Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役 会長兼社長 グループCEO 藤野 英人
【最高財務責任者の役職氏名】	常務取締役 グループCAO 岩田 次郎
【本店の所在の場所】	東京都千代田区丸の内一丁目11番1号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 1【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

代表取締役会長兼社長グループCEO藤野英人及び常務取締役グループCAO岩田次郎は、当社及び当社の関係会社（以下「当社グループ」）の財務報告に係る内部統制の整備及び運用に責任を有しております。

当社グループは、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の改訂について（意見書）」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備及び運用しております。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものであります。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性があります。

## 2【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

当社グループは、財務報告に係る内部統制の評価を、当事業年度の末日である2025年3月31日を基準日として行っており、評価に当たっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠しております。

本評価においては、連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制（全社的な内部統制）の評価を行った上で、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定しております。当該業務プロセスの評価においては、選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備及び運用状況を評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行いました。

財務報告に係る内部統制の評価範囲は、当社グループについて、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定しております。財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性は、金額的及び質的影響並びにその発生可能性を考慮して決定しており、当社並びに連結子会社2社を対象として行った全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定しました。なお、金額的及び質的影響並びにその発生可能性の観点から僅少であると判断した連結子会社については、全社的な内部統制及び全社的な観点に基づく決算・財務プロセス統制の評価範囲に含めておりません。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲について、当社グループでは、営業収益の項目とその源泉となる事業拠点の関連性が明確であり、また、当社グループの主たる事業である投資運用事業の規模が、各事業の運用資産残高を通じて収益に反映され、かつ経営管理上も注視しているため、連結営業収益（連結会社間取引消去後）をベースに、全社的な内部統制の評価が良好であることを踏まえ、連結営業収益のおおむね3分の2がカバーされるように「重要な事業拠点」を選定しております。

選定した重要な事業拠点においては、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目として、投資運用事業においてお客様から投資いただいた資金を当社グループで運用することに伴い多額に計上される「営業収益」、「営業費用」、「一般管理費」、及び、当社グループのビジネスが情報システムに大きく依存していることから多額に計上される「ソフトウェア」を中心とした「固定資産」に至る業務プロセスを評価の対象としております。さらに、当社グループを横断的に分析、評価及び検討し、重要な虚偽記載の発生可能性が高く、難易度の高い見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセス（営業投資有価証券）を財務報告への影響を勘案して、重要性の大きい業務プロセスとして評価対象に追加しております。

## 3【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、当事業年度末日時点において、当社の財務報告に係る内部統制は有効であると判断いたしました。

## 4【付記事項】

該当事項はありません。

## 5【特記事項】

該当事項はありません。